

ふるさと うつく うみ つぎ せだい にっぽんざいだん すいしん
 古里の美しい海を次の世代に一。日本財団が推進し
 ている「海と日本プロジェクト」の一環として、「かが
 わseaマスター」が7月21日と8月11日の両日、東か
 がわ市引田などで行われました。県内の小学5、6年
 生計23人が参加し、同市発祥のハマチ養殖の学習や
 海岸での漂着ごみの回収などを通じ、海を守ること
 の大切さを肌で感じていました。

かいがん かいしゅう りゅうぼく かいがら つか
 海岸で回収した流木や貝殻、ペットボトルなどを使
 ったアート作品づくりにも挑戦。ハマチとマダイの養
 殖いけすをイメージしたオブジェ(高さ約2.5m、横幅
 約3m、奥行き約2.5m)は「さぬき高松まつり」の期
 間中に高松市の市中央公園に展示され、来場者に「豊
 かな暮らしから生まれたごみが海を汚している。ごみを
 捨てないで」と訴えました。

かがわseaマスター



豊かな海を次世代に

かがわseaマスター
 に参加した子どもたちは
 7月21日、ハマチ養殖
 発祥の地の東かがわ市引田
 で養殖の歴史などについて
 学びました。参加者は、養
 殖業の人たちがハマチを大
 切に育てるだけでなく、魚
 が暮らす豊かな瀬戸内海の環
 境を守る取り組みにも力を
 注いでいることを実感してい
 ました。

ハマチ養殖

発祥の地・東かがわ

環境を守る活動に尽力



安戸池にあるハマチの養殖いけすで餌やりを体験する児童たち
 東かがわ市引田

子どもたちは、漁船に乗っ
 て同市引田沖のハマチ養殖
 のいけすを見学した後、海水
 池の安戸池でハマチの餌やり
 を体験。同市引田でハマチ養
 殖業を営む服部秀俊さん
 (49)からは、1928年に野
 網和三郎さんが安戸池でハマ
 チ養殖に成功したことや、
 香川県のハマチの漁獲高は、
 2017年は約5800ト

(約130万匹)、約50億円
 だったことを教わりました。
 ハマチは成長に応じて「モ
 ジャコ、ツバス、ハマチ、ブリ」
 などへと名前が変わる。「出
 世魚」だということや、香川
 のブランドハマチ三兄弟
 「ひけた鯛、なおしまハマチ、
 オリブハマチ」を全国にP
 Rしていることも学習。昼
 食前には魚のさばき方も教

わり、児童たちは自分たちが
 作ったハマチの刺し身を食べ
 て「めちゃくちゃおいしい」と
 歓声を上げていました。
 このほか、ハマチ養殖を
 しているところに赤潮が発生
 した時、昔は養殖いけすを
 漁船で動かして赤潮から逃げ
 たり、夏の間は丸亀や豊島
 の海で養殖をしたりしてい
 たことを知りました。多くの
 栄養が含まれる魚のふんが
 赤潮の原因の一つになってい
 ることも教わり、服部さんは
 「餌の量を調整したり、改
 良したりして海の環境を守
 っている。人間が出すごみや
 排水も赤潮の原因の一つな
 で、余分な栄養を海に流さな
 いで」と呼び掛けていました。
 児童たちは「多くの人たち
 の力で海がきれいに保たれ、
 おいしい魚を安心して食べ
 ることができている。ごみを
 少なくする『リデュース』、
 何度でも使用する『リユ
 ース』、資源に戻す『リサイク
 ル』の3R(スリーアール)
 に取り組んでいきたい」と話
 していました。

× × ×
 今回の新聞記事は、「かが
 わseaマスター」に参加し
 た県内の児童23人が、「ハマ
 チ養殖」「海の環境」「赤
 潮対策」「海ごみの回収」
 「アート作品づくり」につい
 て書いてくれました。

海の環境を大切に

赤潮を防ごう



養殖業の人たちが取り組む赤潮対策などを学ぶ児童たち＝東かがわ市引田

かがわseaマスターに参加した子どもたちは「赤潮を防ぐ努力をしないですむよう、日頃からこみや汚れた水を出さないようにした行政も力を入れてほしい」と話していました。

赤潮をなくすためには、養殖業の人たちが取り組む餌の工夫だけでなく、生活排水などに含まれる窒素やリンを少しでも減らすことが重要です。行政は工場や家庭の排水規制などにも取り組んでいきます。女子児童は「海の栄養は必要だが、必要以上にある必要はない。どうすればいいのかわかることが大切だと感じた」と話していました。

赤潮Q&A 海の富栄養化が原因

海の環境を守ろうと、かがわseaマスターに参加した児童たちが赤潮の原因などについて調べました。

Q 赤潮とは、
A 水中で植物プランクトンが大量に発生して海の色が変わることを赤潮といいます。海の色は、プランクトンの数や種類によって変わり、赤色やオ

Q 赤潮は、
A 赤潮が発生した場所にいる魚は、プランクトンの影響でえらが傷んで水中で呼吸ができなくなり、死んでしまいます。赤潮による漁業被害は深刻で、香川県では1972年に30億円近い被害がありました。

Q 原因は、
A 海水の窒素やリンなどが多くなりすぎる富栄養化が原因。赤潮を引き起こすプランクトンの中には、雨で海水の塩分が低下することで増える種類もいます。富栄養化は、豊富な栄養を含む養殖魚のふんや餌の食べ残し、工場や生活の排水などの影響で起こります。養殖業の人たちは餌の改良や量の調整、行政は排水規制や赤潮研究などに取り組み、現在は70年代と比べて発生する回

Q どんな被害が出るの。
A 赤潮が発生した場所にいる魚は、プランクトンの影響でえらが傷んで水中で呼吸ができなくなり、死んでしまいます。赤潮による漁業被害は深刻で、香川県では1972年に30億円近い被害がありました。

Q 私たちができる対策は、
A 海ごみの多くは陸上で出された生活ごみ。「ごみの量を減らすリデュース」「ごみにしないで何度でも使うリユース」「使い終わったものを資源に戻すリサイクル」の3R(スリーアール)を心掛けるなど、日頃から海を大切にすることが重要です。



漁船に乗って養殖いけすを見学する児童たち＝東かがわ市引田沖

ライフジャケット着用を

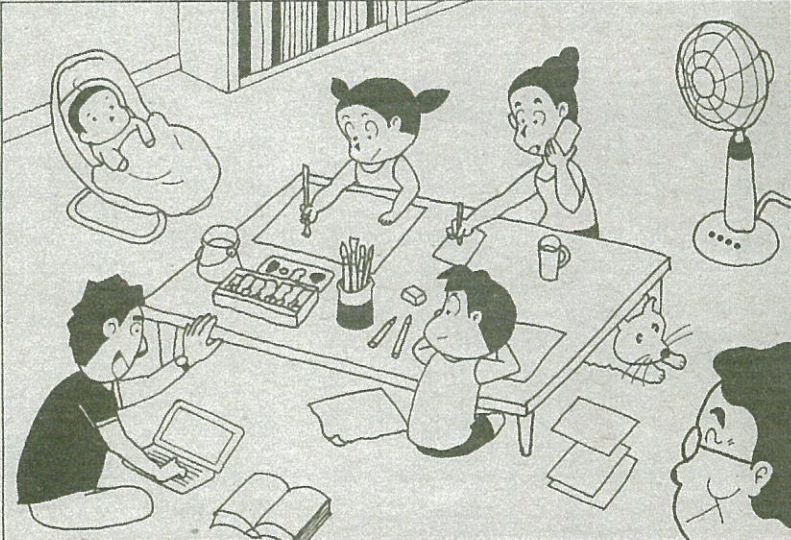
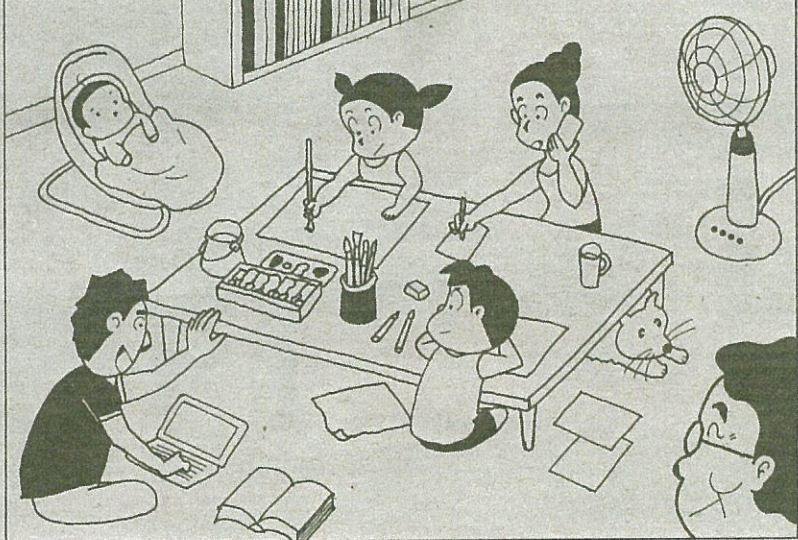
海の安全

かがわseaマスターに参加した子どもたちは「海を安全に楽しむための「備え」について学びました。東かがわ市引田の漁港でライフジャケットの着用方法を教わった後、漁船に乗って同市引田沖のハマチの養殖いけすを見学。おいしく新鮮な魚を家庭に届けるため、養殖業の人たちが安全な作業を心掛けていることを実感していました。

身近な浜辺に潜む危険についても学習。NPO法人アークペラゴ(高松市)のスタッフから、▽毒を持つクラゲなどが死んでいても触らない▽漂着ごみに注射器の針が混ざっていることもある▽液体が入った漂着ごみのペットボトルのふたは絶対に開けないなど教わりました。

このほか、海岸から沖合に向かう強い潮の流れ「離岸流」に遭遇した時の対処法として、「真つすぐ泳いで逃げるのではなく、波に対して横方向に逃げるのが重要」と学習。また、アークペラゴのスタッフは熱中症への備えが重要だと強調し、「海で遊ぶ時はこまめな水分補給や涼しい服装を心掛けてほしい」と話していました。

7つのちがいがし



左右の絵を見比べて7カ所ちがいを見つけてください。
(作・絵 トミタ・イチロー)
宿題 答えは13面

かがわseaマス ターに参加した子どもたちは7月21日、東かがわ市引田で海ごみを回収する活動を行いました。ごみの影響で魚や鳥など海の生き物たちが苦しんでいることも学習しました。児童たちは、自分たちの豊かな生活が自然環境を壊す原因の一つになっていることを肌で感じ、「海ごみを減らすため、必要のないものを買わないという努力も必要」と話しています。

海の生き物たちを守ろう

かがわseaマス ターに参加した子どもたちは7月21日、東かがわ市引田で海ごみを回収する活動を行いました。ごみの影響で魚や鳥など海の生き物たちが苦しんでいることも学習しました。児童たちは、自分たちの豊かな生活が自然環境を壊す原因の一つになっていることを肌で感じ、「海ごみを減らすため、必要のないものを買わないという努力も必要」と話しています。

漂着ごみ回収

みもあるそうです。回収したごみを調べたところ、食品容器などのプラスチック製品が多く、中には中身が入ったままのペットボトルもありました。講師のスタッフは、壊れたバケツが首輪のように苦んでいるアザラシの写真を紹介しながら、「日本に捨てられたごみが外国に流れ着いて、餌だと思いついで食べた魚や鳥が死んでしまっている」と話していました。



海岸に漂着したごみを拾い集める児童たち―東かがわ市引田

自分たちができる海ごみ対策についても考え、必要のないものを購入しない▽リサイクルなどに取り組む▽水筒を持参する―などと提案。



海岸で回収した漂着ごみを使ってアート作品を作る児童たち

アートに変身

「海をきれいに」願い込め

かがわseaマス ターに参加した子どもたちは8月11日、高松市内で海ごみを使ったアート作品づくりに取り組みました。ペットボトルのふたや貝殻などがカラフルな「海ごみの花」なして変身しました。児童は「ごみを『お宝』に変えることができた。きれいな海を守るために、これからもどんどんごみ拾いをしたい」と話していました。

メッセージ」と題したアート作品は、「さぬき高松まつり」の会場で展示され、来場者に海の環境を守るこの大切さを訴えました。

この日は、高松市の造形作家、四宮龍さん(42)の指導を受けながら、流木や貝殻、ペットボトルなどをペンキで色付けしたり、紙粘土で形を整えたりして作品に仕上げました。最後に四宮さんが手掛けたハマチの養殖いけすをイメージしたオブジェ(高さ約2・5メートル、横幅約3メートル、奥行き約2・5メートル)を囲むように飾り付けました。



さぬき高松まつりの会場で展示された海ごみで作ったアート作品未来へのメッセージ―高松市、市中央公園

かがわseaマスター 参加児童23人の感想

武井沙恵さん(宇多津北小6年)

養殖のハマチに餌をあげることができ、昼食には自分たちで調理したハマチの刺し身を食べました。養殖業の人たちがいろんな苦労や工夫をしていることを学ぶことができ、貴重な体験になりました。

濱敦也さん(十河小6年)

東かがわ市引田の安戸池で、養殖しているハマチに餌をあげる体験ができました。餌をあげた時、円になって泳いでいたハマチが、バタバタとはねていた様子が非常に興味深かったです。

川田漣司さん(牟礼北小5年)

東かがわ市引田で、ハマチを養殖する時、赤潮対策として大きないけすで育てていることが分かりました。また、いけすの中のハマチが、反時計回りに泳いでいることがすごく不思議でした。

近藤和香さん(長尾小6年)

漁船に初めて乗ることができ、ワクワクしました。ハマチの解体の仕方を学ぶことができ、私たちも刺し身づくりに挑戦しました。今回の活動を通じて、もっと海に親しみたいと思いました。

伊勢明王斗さん(十河小6年)

赤潮の影響で多くの魚が死んでしまうことを聞いて非常に驚きました。何気なく川などに捨てているごみが赤潮を引き起こしてしまい、ハマチなどが苦しんでいることが分かりました。

中島悠我さん(牟礼北小5年)

楽しく、貴重な体験でした。プランクトンが大量発生して赤潮になってしまったら、大好きな海が汚れるし、そこで暮らす魚も死んでしまうので、生活排水をあまり出さないようにしたいです。

石橋修斗さん(庵治小5年)

赤潮は、プランクトンが多く発生して魚が呼吸できなくなることを教わりました。海の自然を守りたいと思いました。みんなで協力して海のごみを回収して、海をきれいにしていきたいです。

綾田悠希さん(坂出東部小6年)

海のごみは、誰かが川に捨てたり、海に捨てたりしていることが原因だということを知ることができました。ごみの影響で死んでしまう海の生き物もいるということも学ぶことができました。

南部佑斗さん(平井小5年)

軽い気持ちで捨てられたごみの影響で、魚が死んでしまっている。浮かんでいるごみを餌と間違えて食べて、死んでしまう生き物もいる。必要でないものを買わないことなどが大切だと思いました。

中川月葡さん(さぬき南小5年)

多くのことを学べて良かったです。海ごみの回収では、たくさんのごみがあってびっくりしました。アート作品づくりでは、瀬戸内海がきれいな海になってほしいという願いを込め、亀を作りました。

間嶋芽菜さん(さぬき南小5年)

赤潮や県魚ハマチのことを学ぶことができました。アート作品づくりでは、海の生き物がいつも楽しく泳げるようにという願いを込めて亀を作りました。今回、学んだことを生かしていきたいです。



東かがわ市引田の海岸で漂着ごみを回収した児童たち

池本瑛太さん(香南小5年)

海ごみなどを使ってアート作品づくりを行いました。ごみがアートに変わったのですごいなと思いました。ごみは海の生き物を苦しめています。ごみを出さないようにして海を守りたいと思いました。

尾浦実那さん(屋島小6年)

海ごみでアート作品が作れると思っていませんでしたが、みんなで力を合わせて一つの作品を作ることができました。活動を通じて、海を大切にしようという気持ちが芽生えました。

坂上心和さん(林小6年)

赤潮は海が汚れているだけだと思っていましたが、自分たちが出したごみの影響で起こる赤潮で魚が苦しんでいることを学びました。人間がごみを捨てないようにすれば、赤潮を減らせると思いました。

竹安瞭さん(付属坂出小5年)

リデュース(ごみ削減)、リユース(再利用)、リサイクル(資源として利用)、リフューズ(不要なものを買わない)、リペア(長く使う)の5Rに取り組み、ごみを減らして海をきれいにしたいです。

高木結季さん(城東小6年)

漁師さんの船に初めて乗りました。船が波をたてるたびに虹がでてきれいでした。安戸池ではハマチの餌やりを体験しました。餌を投げるとすごい水しぶきが上がり、とてもおもしろかったです。

山野葉月さん(太田小5年)

今回のプロジェクトに参加し、ハマチに餌をあげたことと、海岸で回収したごみや家庭のごみを使ってアート作品を作ったことが心に残りました。作品はみんなと協力して作ったので楽しかったです。

井上ことりさん(亀阜小5年)

ごみが世界の海に大きな影響をもたらすことを知り、自分のことばかりでなく、海の生き物のことも考えて生活したいと思いました。できることから少しずつ取り組み、みんなが喜ぶ海にしたいです。

松川蒼さん(付属坂出小5年)

人間が捨てたごみで海の生き物が苦しんでいることが心に残りました。ごみなどの影響で赤潮が発生して魚が死に、漁師にも迷惑をかけています。リサイクルなどを行い、きれいな海にしていきたいです。

金藤蒼依さん(屋島西小6年)

ハマチの餌やりをしたことが印象に残りました。餌をあげた時にハマチが勢いよくジャンプして、とても楽しかったです。西日本放送の取材で写真を撮影したり、新聞の記事を書いたりもしました。

中屋来斗さん(城辰小5年)

赤潮でたくさんの魚が死んでいることを知ってびっくりしました。海ごみを使ったアート作品づくりも印象に残っています。上手に作品が作れたので良かったです。また体験したいと思いました。

石谷胡実さん(太田南小5年)

これまでにない貴重な体験ができました。取材活動として腕章を着用して、デジタルカメラで写真撮影も行いました。餌をあげた瞬間、水しぶきを上げるハマチを撮影するのは難しかったです。

十川都和さん(太田南小5年)

海ごみの影響で生き物が死んでしまっていることを知り、ごみを捨てないようにしようと決意しました。アート作品づくりでは、予想外にいい作品を作る人がいたので「みんなやるなあ」と思いました。